

「神田川クルーズ」江戸日本橋の歴史ある水路を巡る

令和7年6月25日 記 小倉洋一

実施日：令和7年6月19日(木)

参加者：23名

集合場所：所沢駅2番線ホーム 午前9時30分

行程：所沢駅9時40分発⇒高田馬場駅乗換⇒東京メトロ東西線高田馬場駅⇒日本橋駅
⇒日本橋散策⇒日本橋由来記の碑⇒日本道路元標⇒魚河岸跡⇒神田川クルーズ
90分ガイド付き⇒滝の広場一次解散

〔江戸時代から経済、商業、金融、物流、文化の中心地として栄えた日本橋〕

「日本橋」は江戸幕府開府の慶長8年(1603)に造られ、慶長9年(1604)に東海道・甲州街道・奥州街道・日光街道・中山道の五街道の起点として定められ、各地から訪れる人々や物産で街は大いに賑わった。やがて、生活のための物資供給には、大河川が存在が不可欠になり、海と通じる水路を整備し、商業地にはいくつもの運河や河岸が設けられた。日本橋川・京橋川・八丁堀の河岸は「水運の大動脈」といわれる要路となった。

1) 日本道路元標

明治44年(1911)に架橋された石造りの現在の橋は、関東大震災や東京大空襲などの災禍を得て、平成11年(1999)に国指定の重要文化財に指定された。その中央には昭和47年(1972)時の総理大臣佐藤栄作の書による「日本国道路元標」が埋め込まれ、現在も日本の道路の起点として役割を担っている。



2) 魚河岸跡



徳川家康が江戸に入府した後、摂津国の漁師たちが江戸近辺で漁業を営む許しを得て、魚介類を献上した。

漁師たちは、上納して余った魚介類を幕府の許しを得たうえで一般にも売りはじめた。これが日本橋魚河岸の始まりである。その後、関東大震災の発生により、市場が焼失した為、築地に移り中央卸売市場へと発展した。

現在、魚河岸のあったこの場所には、「日本橋魚市場発祥の地」と刻まれた記念碑と乙姫像がある。

3) 神田川クルーズ

日本橋川・神田川・隅田川と江戸東京の三つの水路を進み、過去・現在・そして将来の景色が想像できるガイド付きのクルージングである。

(屋根なし、日本橋川・神田川設計専用クルーザー

一、

44 人乗り、当日は満席)

日本橋船着場を出発、日本橋川を上流に進み、江戸城の石垣などを左に見て、神田川へ合流。

神田川を下りお茶の水溪谷や秋葉原を通過し、隅田川へ。その後、日本橋川へ入り日本橋船着場に到着する周回コースである。(各水路での見どころ)



①日本橋川

日本橋たもとの船着場をスタート

東京オリンピックの昭和 39 年(1964)に造られた首都高速の下を進むため、日差しが遮られ心地よい風があり快適であった。(開通から 60 年以上経つ日本橋川上空にかかる首都高は 2040 年度の地下化の完成目指して工事が行われている。)

常盤橋公園にある渋沢栄一の銅像や江戸時代の石垣には各藩の刻印が残る石を見ることができる。そして、日本銀行。新幹線の橋梁や在来線の橋梁。常盤橋、神田橋、一ツ橋、まないた橋、など多くの橋をくぐり、神田川に合流となる。



②神田川

神田川に入ると東京ドームの屋根を眺め、御茶ノ水溪谷では、兩岸のビル群と自然が調和した景観が広がっていた。

JR 中央線や総武線、東京メトロ丸の内線の電車が行き交う様子を船長さんが時間調整して見せてくれた。水道橋から御茶ノ水橋界隈の学生街、聖橋から万世橋界隈の秋葉原電気街などでは人の流れが多くみられるようになった。

③隅田川



広々した隅田川に入ると、目の前にはスカイツリーが、右側には明治座が左には芭蕉庵史跡展望庭園のなかにある「動く松尾芭蕉像」が見られた。この先、清洲橋を進み船が一回りすると清洲橋の真ん中にスカイツリーのビューポイントが現れた。それから、東京のウォーターフロント開発の先駆けとして誕生したリバーシティ21も見られた。川風が心地よく、開放感が味わえた。ガイドさんによる歴史や景観などの説明に聞き入りあっという間の90分であった。ゆったりと船の上から見る景色は、陸上からでは味わえない体験であった。



担当 E グループ 中村恵子 小倉洋一